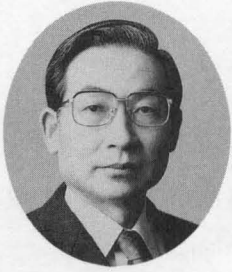


1. 巻 頭 言



高度情報化社会と情報処理センター

情報処理センター長

山 田 英 二

最近の情報処理センターニュースのタイトルに、テレックス番号（752302）とファックス番号（0958-49-1040）が加わっている事にお気づきになったであろうか。実は、設置してみたところ、予想以上に利用者が多かったので、驚かされたというのが正直な感想である。

情報処理センターは、文部省より計算機借料と維持費をもらって設置されている学内共同利用施設であるために、コンピュータのサービス提供を目的として運営されているのは当然のことである。しかし一方では、学内より運営費の一部を負担していただいていることを考えるとき、教職員が職務遂行上必要とする機能を持つ機関がなければ、既存の施設が代行すべく努力するのもまた当然と考えられる。それゆえ今度、情報処理センターに情報処理という本来の業務に、情報交換の機能をも付加させてみた訳である。

今や大学は、その国際化が問われている。本学が受け入れる研究者や留学生は増加の一途をたどり、又海外に出かける研究者も年毎に増えている。このような国際交流を円滑に行う道具の一つとして、本センターのテレックスやファックスを大いに利用していただけたらと願っている。

我々は、今や高度情報化社会に住んでいるといわれる。そして、情報の伝達や処理がより迅速に、より安価に、そしてより確実に行う手段としての新しい媒体——ニューメディアをいろいろと開発し、生活を豊かにすることを学びつつある。その一つがコンピュータネットワークを通しての電子メールで、いずれ近いうちにテレックスやファックスの需要も大半は、こちらの方へ移行して行くものと考えられる。幸い本センター所属の野崎剛一講師が、現在、文部省の長期在外研究員として、この研究のために渡米中である。近いうちに帰国するので、その研究の成果を情報処理センターの運営に生かして行きたいと考えている。

情報処理センターは、高度情報化社会における情報処理センターのあり方を、今、真剣に研究中である。皆様方の御支援や御鞭撻をお願いする次第である。